

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身またはご家族などがこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身またはご家族などの診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2020年1月1日 ～ 2028年3月31日の間に、急性腹症のために虎の門病院消化器外科に入院・通院し、手術を受けられた方

【研究課題名】

急性腹症に対する手術における合併症の軽減と予後改善を目指した手術手技・周術期管理に関する探索的研究

【研究の目的・背景】

《目的》

急性腹症に対する手術における術式・周術期管理・短期および長期成績を包括的に見直すことで、手術治療そのもののリスクや課題を客観的に明らかにすることにある。さらにそれらに関連する臨床病理学的因子を抽出し、患者背景や疾患特性に応じて最適な手技や周術期管理のあり方を検討することで、合併症の軽減と予後改善を目指す。最終的には、急性腹症治療の標準化と施設間格差の縮小につなげ、公衆衛生的にも社会全体の医療の質向上に寄与することを目的とする。

《研究に至る背景》

急性腹症に対する手術は迅速な対応が求められる一方で、患者の全身状態や発症背景の多様性、炎症の進展度、臓器障害の有無などにより、手術のリスクや成績は大きく変動する。さらに術式の選択や周術期管理は外科医の裁量に依存する部分が多く、施設間・術者間で治療方針や成績に大きな差が生じているのが現状である。また近年、術後合併症の発生や周術期管理の差異が単に短期成績に影響を及ぼすだけでなく、長期予後とも関連することが報告されており、これは急性腹症に対する外科治療において看過できない問題である。

【研究期間】

2025年10月24日 ～ 2030年3月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院 消化器外科 において研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

院外に提供することはありません

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、心電図、MRI 画像データ、CT データ、薬歴、看護記録
など

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：消化器外科 ・ 下山勇人

研究機関の長：院長 門脇 孝

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身またはご家族などの診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身またはご家族などの診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、 2029 年3月31日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器外科 ・ 下山勇人

電話 03-3588-1111(代表)